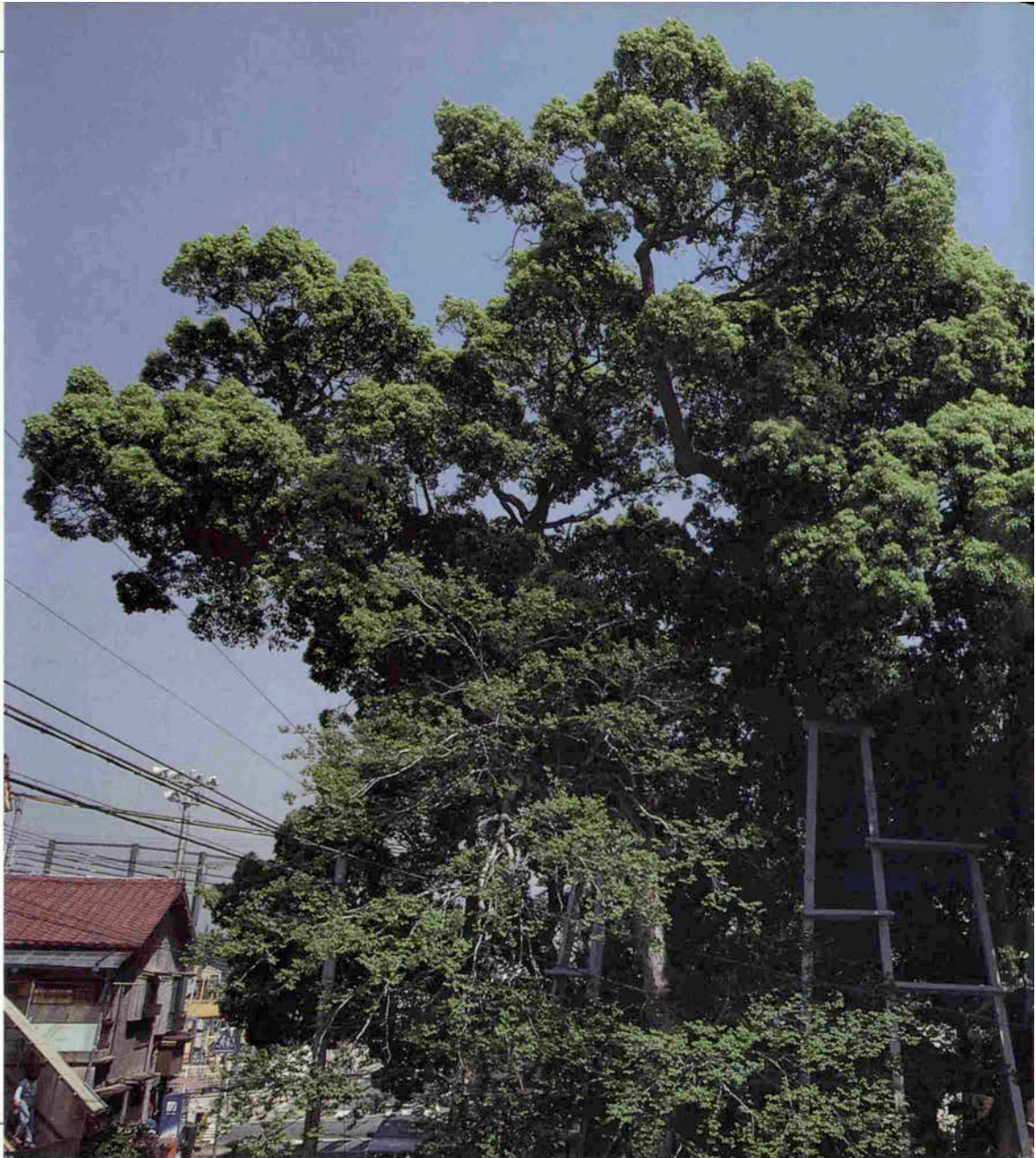


*Photo Masao Kobayashi*

# 神戸の名木

神前のくすのき



所在地 灘区神前町三丁目春日神社

□市バス神前町北一〇〇m

どっかと大地に根をおろし、春日神社を抱くようにそびえる樟は、少し西に傾き、境内からはみ出てまさに千年樟の雄々しさです。

市内では名実とも最古参格。

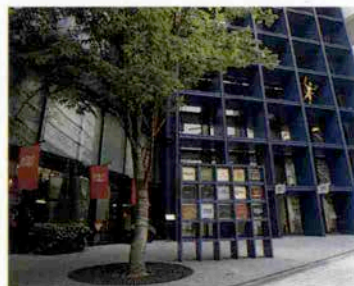


erry Company



# 旧居留地散歩④

PRODUCED BY KOBE DAIMARU



**GENIUS GALLERY**

ジーニアス・ギャラリー

<水曜定休>

神戸市中央区西町33 / 11:00AM~8:00PM

<ジーニアス・カフェのみ 10:00AM~8:00PM>

●ジーニアス・ギャラリーへのお問い合わせは  
大丸神戸店(078)331-8121まで





# Mulberry Company

マルベリー神戸店 / ジーニアス・ギャラリー2階

英国の正統派高級レザー雑貨・ファッションブランド「マルベリー」に漂う独特の気品は、どんなライフシーンでも、心に落ち着きと自信を与えてくれます。英国式カントリーライフ 貴族趣味への一貫したこだわりや、素材の良さには定評があり、世界中に多くのファンを持っています。ジーニアス・ギャラリーの「マルベリー」は、バッグから、革小物、靴、ステーションナリー、メンズ・レディースのウエアまで揃った直営ショップ。ロンドンの本店そのままの、品格ある雰囲気、をたっぷりとお楽しみください。



バッグ ..... 70,000円  
スカーフ ..... 32,000円



ジャケット(サマーウール) ..... 98,000円  
ブラウス(ビスコース) ..... 57,000円  
パンツ(サマーウール) ..... 45,000円



ブリーフケース ..... 120,000円

※表示価格の3%を消費税として別途頂いたします。

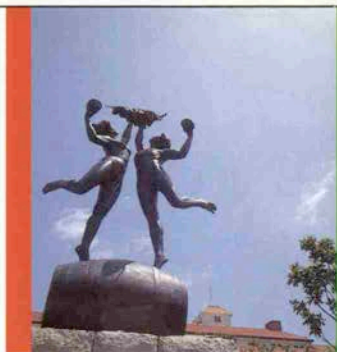




■ 食文化対談

バツカスとアリアンナが  
いざな  
葡萄の豊作を誘った！

新谷 瑠紀 (神戸女子大学教授)  
嘉本 禎夫 (神戸市農政局長)



4.4 ha を誇る高級ワイン葡萄園で新谷瑠紀さん(右)と 嘉本禎夫さん

神戸ワイン発展の願いを込めて、古代ギリシヤ、ローマの「葡萄の神、酒の神」として崇拝されているバツカスとその妻アリアンナの像が、7月6日、神戸市立農業公園に設置された。

この彫像は新谷さんの作品。

それが出来るのを5年間待った嘉本神戸市農政局長。

その効あって、今年は豊作。

やっぱり神様はいららしい。

嘉本 農業公園もオープンしてから7年目。『バツカス』は5年くらい前に新谷さんにお願したんですが、それから葡萄の木も大きくなりましたし、施設もたくさん出来ました。バーベキュー場にも雨、風を受ける覆いができました「たれが飛ぶ」って苦情が出てましてね。(笑)

でも、最後のとどめは「バツカス」ですわ。おかげ様で、今年は昨年より2割増しの豊作です。新谷 制作期間5年は長いか短いか、兎角いい勉強をさせて頂

き感謝しています。私の勉強不足が一作ごとにわかり、作家は一生涯勉強って感じですね。創っては壊しの連続で嘉本さんには長い間待つてもらいました。電話が掛かってくる度にドキッと



困りましたね。「またバラバラです」って。(笑)「エエもん作ってくれ」と嘉本さんは唯その一言だけ、それがブレッツシャーとなり、私はハッスルしましたよ。私は国産のワインも愛しています、特に神戸ワインは好きですね。

ジェニユインで神戸葡萄の純粋酒だからモンデセレクションで次々と受賞されるんです。

神戸ワインは美味いと言ったことは間違いやなかった。

嘉本 神戸ワインは本当に純粋なんです。神戸産の葡萄100%ですし、それもワイン専用品種なんです。ですから、モンデセレクションでもかなりの評価を得られたんだと思います。

葡萄もエキス分の高い葡萄がいいんです。それをこれからも心掛けて、そのためにも栽培管理を重視していきたいですね。

新谷 真夏の暑い最中、葡萄畑を歩きまわってね、色々な品種や葉の形などをここでシッカリ勉強させてもらった。モデルについて熟知するということは大切です、そして創作してゆくことの尊さを再認識しております。ローマにバツカナリアという祭りがあるんです。それが今のカーニバルにつながっているんですが、そういうお祭がここでやれたら楽しいですね。「バツカス祭り」みたいなのを……。



モンデ・セレクション  
3年連続、金、銀、銅賞受賞

KOBÉ  
Wine

神戸市立農業公園

神戸市西区押部谷町高和1557

☎078 (991) 3911

嘉本 そういうのを実現できたいいですね。その時はワイン1本分ぐらい入る大きなワイングラスで乾杯して、ホイリーっていう、今日限りのその時にしか飲めないワインがあるんです、それを皆んなで飲んで。

新谷 それからバツカス劇もやってみたい。例えばバツカスの誕生からお供を連れての修業の旅、そしてアリアナとの出会いなど……。人間臭くアモーレのムンムンとする神の自然・宇宙・芸術とのかかわりなど、題材にはこと欠かないなあ。

嘉本 ワインは、その場の雰囲気明るくしたり、人々を陽気にする、その乾杯で喧嘩の仲直りをするようなお酒ですから、そんな劇になればいいですね。新谷 そうですね。楽しい水とか聖なる水と言われてますから。



# ハ ー ア ッ ・ シ コ ヨ レ ン ク パ ー シ ョ ク ン



R. M. K. A. M. I

## メリーヒル

ゲルラン

ボンフカヤ

シス

ループル・フレイムサロ

ダイアナ

ミッシェル・克蘭

クロードレマ

タカノ

ココ山岡

## 三愛

キャンディッド・マス

メイソン・グレイ

フォーセット

ベネトン

ラッキーズ

ハニーハウス

イーストボーイ

ベネトン・ダグズ

フェアリー

サンクス・クラブ

リップスター

ベイトン・ブレイス

ヴィフ

バルチザン

ロイス・クレモン

アラブ・ドレック

ミシユ・エタム  
アユージエ  
クラゲ・ミッド  
リーフ・ノット  
アトモス・フェール  
ヴィンキー  
アラン・マスキャン  
キャトル・セゼン  
ハウス・オブ・ローゼ  
ワコー  
トリップ  
ラバブル  
ミセラン  
シエル  
ベネトン・インナー

# FASHION PARK

神戸・三宮さんプラザ、センタープラザ3F

営業時間 11:00-18:00 PHONE 078-332-1698

8月は、第3月曜定休日、第3火曜臨時休業となります。

陽ざしが心もち優しくなった感じ。  
夏の終わり。  
太陽のもとではしゃいだバカンスの日々は  
つい数日前のことなのに。  
なんかが遠い思い出のよう。  
背中の水着のあとには、ひと夏の名残り。  
潮風で乾いた髪。  
そばかすも少し増えたかしらと思ふ。  
秋が来る前に。  
自分に優しい時間を通して  
遊び疲れた心と体をいたわりたい。

リラクゼーションのメニューは  
まずバスタイム。  
ハーブやバラの花びらをバスに浮かべたり、  
植物のエッセンスを含んだ石けんやシャワーで、  
肌と髪を優しくケアしたり。  
眠る前のひとときは、  
ハーブティーを飲みながら、  
心地良い音楽に身をゆだねたり。  
久し振りに通かっていた温泉をひとしきり楽しむ。  
いかもしたい。

フェミニンな秋にふさわしい、  
優しいニュアンスを身につけるための  
リラクゼーションタイム。  
秋風が立つころにはきっと、  
シルクのブラウスや、  
ヒールのあるパンプスが  
似合う私になっているはず。



ARIANNA  
BY YUKI SHINTANI

これは神戸を愛する人々の雑談です  
あなたのくらしに楽しい事をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の心の手帖です

8月号目次 ● 1991・364

表紙／(故)小嶋良平名作シリーズ

セカンドカバ／西村功

神戸っ子／金正順・上平田裕子／藤田稔

ある集い／グループ・シオン・神戸現代陶芸会

コウベスナック／神戸シークワイン誕生 バックカス & アリアンナ像

創る／赤根和生・南沢

神戸の名木／小林功夫

私の意見／永田良一郎

ボエム・ド・コウベ／和田英子

随想二題／刀俎喜美子

地域文化論／水谷順介

連載エッセイ／田中千佐

私と神戸／豊 妻

神戸っ子のこうへ考／辻田忠弘

井植文化賞発表／文化芸術部門・科学技術部門

社会福祉部門・地域活動部門・報道出版部門

国際交流部門・特別賞

歴史ロマン 楠木正成／吉田智朗・高橋康夫・熱田公・

鈴鹿千代乃

神戸の映像を創る／セビアウラから・シーズレイン・

ヘイ・白羽弥に監督

キャンベーン座談会／神戸のインテリアデザイン

ンを考える／赤松武寛・安田謙・金丸雅博・杉本勇和次

神戸のお嬢さん／佐藤はるか・森るり

ひょうごウオーク／ふれあいの祭典・高橋孟

ネオモーターメルヘン／篠原昭子

コーヒープレイク

亀井一成のズーム・イン・ZOO

ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田淳

小嶋良平遺作展によせて

神戸J.C

話題のひろば

kobe topicks

神戸を福祉の町に／橋本明

有馬歳時記

神戸百貨会だより

モダンカルチャー

シネマ試写室／テルマ&ルイズ・淀川長治

びつといん

ボケットジャーナル

K.F.S

るぼるたーじゅ神戸／兜子の館／文・有井基

連載小説「星の光・月の位置」(最終回)

文・大迫智志郎・絵・田中一好

連載エッセイ「北野物語」

文・宮本豊子 写真・中村延延

海・船・港・浅間丸 文・山田幸苗

目次写真／新谷隆紀

カメラ・米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田真志・森田純三

176

174 157

152 148 147 144 142 140 138 136 134 132 126 124 123 120 118 114 113 110 104 84 76 70



神戸  
謹製

カレー元年

伝承  
製法

神戸から、  
お皿の中の  
文明開化



開店以来、好評をいただいておりますカレー元年。

御影店では伝承製法に基づくカレーを、十分に味わっていただくために、カレーライスの名脇役、よい水(神戸ウォーター)、よい米(新潟産コシヒカリ)、よい薬味(無添加のらっきょう、福神漬)をご用意して、ご来店をお待ちしております。



・カレー元年 御影店

神戸市東灘区御影山手1-2-10  
御影ガーデンシティ1F  
☎ 078-841-5529



おかげさまで創立20周年

20th  
Anniversary  
Rock Field

HIGH QUALITY DELICATESSEN

株式会社 ロック・フィールド

本 社/〒650 神戸市中央区明石町48番地 神戸ダイヤモンドビル5F  
TEL(078)331-1021(代表)

ひさしぶりに、行ってみようか  
 変わったかしら、あのコーヒーカップ  
 そんな気分になるジャケット……  
 2人の時間。



道満雅彦・三弥さんご夫妻



ジャケット ダブル ¥46,000  
 シングル ¥43,000



**MAC**  
 SINCE 1895 KOBE

HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22 / SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651  
 SANNOMIYA-MAC  
 THE BLAZER SHOP MAC  
 DOLCE MAC  
 FESTA MAC  
 BENET TON MAC  
 BENET TON MAC  
 SUNVIOLA MAC  
 PLENTY MAC

SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895  
 TOR-ROAD 078-391-0896  
 SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141  
 HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738  
 HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333  
 AKASHI FORUS 4F 078-913-8142  
 TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830  
 SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088





## VITTORIA

無限の空間と

広い大地と

そして愛から 世界は生まれてくる。

いま最も高い星から

一つの輝きが降りてくる。

煩悩はそこに引きよせられ、

ここでは それはアモーレと呼ばれる。

美しい海と山に恵まれた神戸の街に

ビクトリアガーデンが誕生する。

その賑いと豊饒を祈りつつ……………。

Yuko Shimamura

彫刻家 新谷瑠紀

### 暑中お見舞い申し上げます

あなた様の益々のご健勝での颯爽のご活躍を / と心よりお祈り申し上げます。

モードピアオープン4周年に当り花園の空に舞う女神群像の庭をそのシンボル像の名をとって「ヴィクトリアガーデン」と名づけました(撮影無料開放)庭園の花や彫刻と共にあなた様のご来遊を笑顔一杯でお待ちしております。

平成3年盛夏

オールスタイルグループ

会長

24 乙彦

モードピア

神戸市中央区港島中町6-5-1 モードピア

TEL (078) 303-3311

撮影 大屋乙彦

□私の意見

# ふれあいのある 国際交流を！

永田良一郎

〈ライオンズクラブ国際協会  
335-A地区ガバナー〉



今年の六月二十一日にオーストラリアのブリスベンで開かれた第七十四回世界大会でライオンズクラブ国際協会335-A地区ガバナー（GOVERNOR）に就任しました。

ライオンズクラブでは、今秋の十一月七日から十日にわたって、東洋・東南アジアライオンズフォーラムを、ワールド記念ホール、神戸国際交流会館などをメイン会場にして開催します。日本で開かれるのは前回の札幌について七年ぶりなのですが、先ほどの世界会議でも、多くの方々が神戸にやって来て下さるように、時間をつくっていただいてPRしてまいりました。

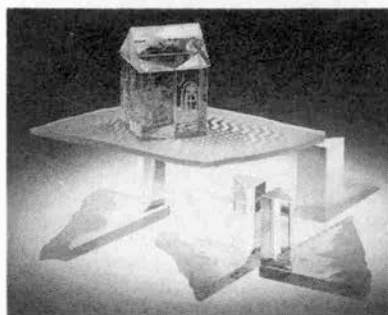
フォーラムは日本をはじめ、韓国、台湾、香港、マカオ、ブルネイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン、タイ、の十地域が参加し、一万人ぐらゐの人々が集まることになりますので、コンベンションシティ神戸らしいオープンな雰囲気のある会議にしたいと思っております。

国際化ということが様々な面で言われますが、日本人はまだまだインターナショナルなつきあい方が下手だと思ひます。外国へ出かけても日本人だけで固まって行動しています。確かに今まで外国の人々と接する土壌が少なかった、ということが原因のひとつですが、やはりこれからはそれではすまされません。

私の所属している335-A地区は今年度のテーマを“ふれあい”としました。人間は生まれてから、いろいろな人と出会い、様々な物と接して生きていくのですから、それを大事にしたいと思うのです。今度のフォーラムでもそういった面を大切にしたいですね。せっかく様々な国の人々と交流ができる機会なのですから、ハートフルにつきあいたいですね。多少失敗しても、片言の英語でもいいじゃないですか。我々の方から外国の方々に対してオープンになる――。そういう交流の中で培っていく人間関係が、これからの国際交流には大切だと思います。同じ人間同士なんですから、いろいろな意味での“ふれあい”を求めてゆきたいですね。



KAKINUMA GALLERY



**Memory**

(ステンドグラス)

柿沼 横子・作

嵯峨美術短期大学助教授

子供の頃、きれいなビー玉や小さなガラス片を光にかざすと、そこには不思議な世界があるように見えました。今は遠いあの頃の気持ちのままに、制作しています。

(柿沼産婦人科に展示 8/1~8/31)

# 芦屋 柿沼産婦人科

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

☎ (0797) 31-1234 (FAX兼用)

月曜～土曜まで診療しています。木曜・土曜は午前のみ。

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

ちよつと  
ジェラシーな、  
服。



.....After Fashion

やさしくしないと、ダダをこねる。

それは、お洒落着に人気のアセテートとレーヨンです。デリケートなので、汚れすぎるとハードなクリーニング処理で、せっかくの光沢や発色性の良さを損なうことになりかねません。やさしく扱って、着るたびにお手入れをしてください。

AFTER  
FASHION  
**NISHIJIMA**

本社／神戸市灘区記田町1 078-822-6660 ■神戸工場/078-851-2440

ローブ・ニシジマ三宮/078-332-2440 ■ローブ・ニシジマ山手/078-221-2440

ローブ・ニシジマ芦屋/0797-38-3303 ■ローブ・ニシジマ宝塚/0797-72-0810

大阪工場/06-853-1332 ■ローブ・ニシジマつかしん/06-420-3754

リフォーム・フルフル/078-221-9110

# スクランブル歩道の

和田英子

カット／石坂春生

空が董色に変わると  
スクランブル歩道の  
人のかげはうすれ

溶暗のなかからうかび上るのは

まばゆい二台の花電車だ

歴代の市の長 王冠のミスのうしろに

町内一統 わかい父や母 誰彼の顔

鈴蘭灯が点り

電車が勾配を曲りきる

なつかしい甘茶のような

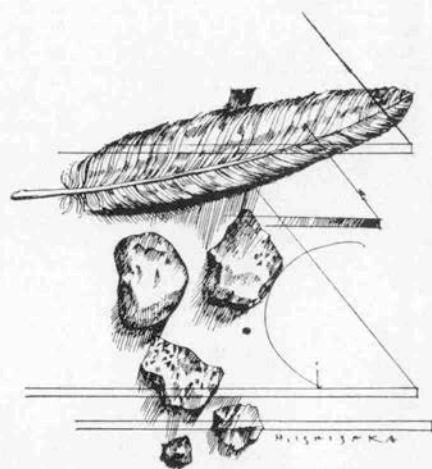
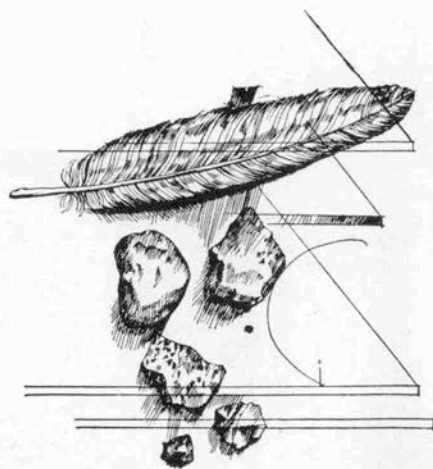
交替の刻

いま

煌々と

海出に連なる

光の帯





# 随想 二題

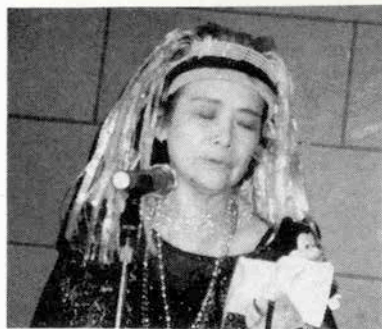
ココ・ロコ

刀彌喜美子

▲作家▼



ココ・ロコというブランド製品がある。「ちよつとクレイジー」という意味だそうだ。「奇蹟」という同人誌の発行人になって十年が経った。「柳絮」が枝分かれして出来たのが「奇蹟」である。「柳絮」とは柳の種子の



▲金髪の青江美奈子!

「金髪のライオン」出版記念パーティで。

ことで白い綿毛がある。ふわふわと雪のように空中に飛ぶ綿毛は、女性の書き手の末広がりの意味して、この誌名は気に入っていた。三百ページに及ぶ号もあり常にその意気の熾んなことで批評家の矚目を集め、どの作品を評すべきかと批評家泣かせとなった。

それでついに分裂したのである。綿毛のようにふわふわどころか、集まった女性書き手は強者揃いであった。同人誌の離合集散、細胞分裂化——つまりは喧嘩——は常時のことで大したことではない。「奇蹟」という誌名は創刊当時の編集者が「作家誕生の奇蹟がおこるか」と、めっぽう張り切って付けたと聞く。その編集者が多忙のために11号で下りてからは、私が面倒をみて32号に至っている。

男性一人女性十四人の同人で、締め切りをよく守り、労を厭わず、その点は真面目で頼もしいのだが、ココ・ロコという点では人後におちない。はしやぎでしたら「ちよつと」どころか、ノリにノッてしまう。「風変わりなメンバ―の生の足跡」と「奇蹟」を解してもらえば満足である。奇人、変人、風変わりでなくてなんで小説が書けようか。ココ・ロコは書き手の必須条件である。

今まで五人の受賞者をだしたが、「作家」になりたいとか「作家」だとはむしろ誰も思っていないだろう。



▲充分個性的だと思いますが...

同人誌の存在の意義とか、あなただけの同人誌における文学観とか、は度度も聞かれた。「書くことの好きな人達が集まってそれぞれが個性的な作品を書く場」と、煎じ詰めればそういうしかない。その「個性的」が難しいんだ。「ちよつとクレイジー」ということなんだ。

パーティがあればキンパツの青江美奈子になり、クラス会があればパーサン姿で「岩壁の母」を唄い、いとこ会があればカンカン帽に浴衣を尻からげして「スーダラ節」を踊り、私のクレイジー振りにはもう有名でなくなった。

次は何をしようか、ココ・ロコのシャツを着てフレンチカンカンというか、など演し物を考えてばかりで、書くほうはお留守になっている。

たかがヨシモト興行的であるだけの私はまず落第生であらう。

書く段になって急に個性的であらうとしてもダメで、日頃から個性的に物を見、考え、行動をしていなければ。

# 青い海 花と香りの 南仏の旅

山田富紗子

ヘアデザイナーV



バラ色に空を染めて沈む夕陽、海の碧さ、美しく曲線を描く海岸線、モナコのピスタ・パレスホテルのバルコニーから眺め乍らその美しさに感動を覚える。私が初めて南仏を旅したのは今から三十年前になる。イタリーからコルニツシユをドライブしてモナコに入った。今日のような夕暮れで金波の海と赤い月が印象的だった。その頃「ルナ・ロッサ（赤い月）」と言う唄が流行していた。その後何度も来ているが、溢れる陽光と碧い海、茂るシユロの並木路、鮮やかな花々、軒を連ねる有名ブティックのウインドウ。いつ訪れてもコートダジュールは私の心を魅了してやまない。今回、カンヌ・ニース、グラーズの商店街と三宮センター街が姉妹提携をする事になり、センター街会長の主人と十名の使節一行の訪問の旅である。夏のバカンスの頃には混雑を極める海岸沿いの道路もまだシーズンに間が有って、車もスムーズに走る。前日のカンヌの新聞に三宮センター街親善使節の事が報じられて、歓迎パーティーに出席したいとの申込みが、多数有ったとの事だった。カンヌ市の副市長、日本総領事、商店街会長、日仏協会会長ユツテ氏を

始め五十人余りの歓迎レセプションに続くパーティー、お互いの繁栄と友好を祈って、シャンパンが開けられる。陽気で明るいユーモア溢れるスピーチが続く。主人も神戸市長のメッセージを手渡し、お礼の言葉をのべた。新鮮な魚貝類を使ったフランス料理にワインを飲みながら、それぞれに打解けて話に花が咲く。私も同じ仕事を持つブティックのマダムと、お互いの仕事の情報を片言で話合った。優雅なパーティーの夜は更ける。

翌日、私達はレッドキャニオンにドライブした。ニースから山間の道をたどり田舎道を行く。途中白ワインの産地と言う小さな村に車を止めて、おいしいワインで一休み。エントリバックスでは山の上の中世の城壁を眺めながら昼食をとる。レッドキャニオンは鉄分を含んだ赤黒い岩石が切り立つような渓谷、車が交差する時はドキッとすがドライブは流石プロ！渓谷にかかる橋の上で二百M下の谷底をめがけて、体に綱を巻いて飛び下りるスポーツをしている人を見た。思わず目を塞いだ。

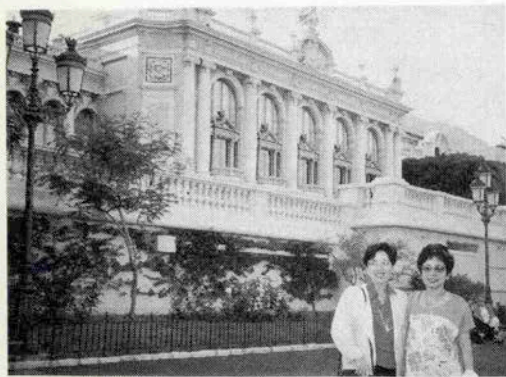
又、別の日にサン・ポール・ド・ヴァンスにドライブをした。やはりニースから山合いに入る。小高い丘の上に建つ城壁に囲まれた街、中世に戻ったような石畳の小路の側には可愛い土産物店やアルチザンのアトリエ、ポプリを売る店など興味深い。山の上の教会に入る。中はしんと静かだ。三人の人が祈りを捧げている。主人と私

もお祈りをした。ニース在住の国際美術審議会の横山氏のお世話でエズの街のガラス工場で美しいグラスを見つけた。その他いろいろな所を廻る事が出来た。いつもはサントロペのドライブとか海辺のイメージの強いコートダジュールにもう一つの顔を見つける事が出来た。

ニースでも市長さんを囲むレセプションがあつて、報道関係のカメラのフラッシュを浴びた。

花と香水の街グラースでは、香水工場見学や街や香水の歴史などを聞かせて頂き、市長始め有力者の方々に依るパーティーを催してくださった。

親善の使節の大役を終え、パリに着いての五、六日、六月のバリはまだ肌寒くて、道行く人は合物のスーツとか皮のジャケットを着ている人も有る。明るい常夏のコートダジュールを、今更乍ら懐かしく思った事である。



サン・ポール・ド・ヴァンスにて。



## 新しい交通手段——三題

## 水谷 穎介

△都市計画家・建築家▽

もう、これ以上自動車が増えたら、町は駄目になってしまふ。広い道路をつけたがったり駐車場をむやみに要求するなどを主張する若手道路官僚には、何のための都市計画——街づくりか、と反論したくなる場面が最今しばしばである。

また、すぐ車に乗って歩こうとしない若者達も困った存在で、歩きながらの思いがけない発見の楽しさを知らず、街の鼓動を体や会話でうけとめようとはしない習性がくせになってしまっている。というわけで、車と道路に代る交通手段の試みを三題、紹介してみたい。

まず、ニュージーランドのウェリントンには、「南太平洋のサンフランシスコ」と称えられ、港と中心市街地と背山の住宅地が接近していて、神戸に似ている町である。首都になったのは一八六五年、中心部には一九〇〇年(明治三十三年)前後の古いビルディングが残存し、住宅では一八五〇年頃からのジョージアンコロシアル・スタイルからはじまって、丘の上の一九〇〇年頃の木造住宅も大事にされていて、昔の居留地や北野町はこういう姿だったのだろうか、と回想ができる。

そして、この町のケーブルカー(一九〇二年設置)の存在が興味

深い。ランプトン・クエイ(LAMPTON QUAY)と呼ばれる中心街の通りをちよつと入りこんだところから発して登りだし、丘の中腹のケルバーン公園(KELBURN PARK)とビクトリア大学のキャンパスを中間駅にして、頂上にある一八七五年に当初の十二エーカーから六十七エーカーに拡大されたボタニック公園に到着している。この植物園(BOTANIC GARDENS AND PARKS in NEW ZEALAND 1987という興味ある書物が発行されていた)をとり囲むかたちで山上に住宅地がひろがっている、という構図である。神戸でいえば、元町商店街からスタートして、諏訪山公園・山手学園をとって再度山ドライブウェイや修法ヶ原・森林植物園の周辺に山上住宅地がひろがっている、という風景である。六甲駅⇄神戸大学キャンパス⇄鶴甲団地のタテの交通をケーブル・カーで対処する、という方法だと思ってもらってもよい。

次は、シンガポールの一番高い丘の一つマウント・フェーバー公園から、町と港をひとまたぎにして、ジャーディン・ステップのPSAタワを経て、観光の島セント

ーサー島まで、一七〇五Mを空中(高さ六〇M)で結んでいるロープウェイ(現地ではこれもケーブル・カーと呼んでいるが)である。これに乗ると、シンガポールのあの高名な公団住宅団地の一例も、造船所も、世界から集っている船の数々も、コンテナターミナルも、ウォーターフロントの中心街も、ワールドトレードセンターも、シンガポールで一番古い港の部分も、眺められる。セントーサ島は、神戸のポートアイランドのように港の真中に独立した島で、全島が緑の観光の島である。モノレールで全島一周が約四十五分間、水上スポーツのハサンワールド、緑の広場のハファンワールド、シンガポール開拓者のギャラリ、日本軍占領時の降伏のギャラリのあるヒストリーワールド、そしてゴルフコースも二つ、もちろん、宿泊や飲食の施設もある。第三がローマの地下道を走る動く歩道で、スペイン広場と地下鉄の駅、そしてボルゲーゼ公園へのベネト通りからの入口、ピエチーレの門のところをつないでいる。丘の下スペイン広場周辺のコンデット通りの賑いと、丘の上のベネト通りのゆったりさと、二つの性格の異なるのれん街としてのショッピングストリートとを、地下鉄駅を介して組合せる機能はたしている。

この三つの交通手段とも、日本でもすでにおなじみのものだが、その活用のし方が、夫々の都市の地勢を特徴づけている好例である。



SAMOTO CLINIC

佐本  
産科

ママといっしょに



赤ちゃん：鵜飼 真紀ちゃん（平成2年12月12日生）

ママ：裕美さん

「2人とも仲よく。」

そして、明るく元気一杯育ってね。」

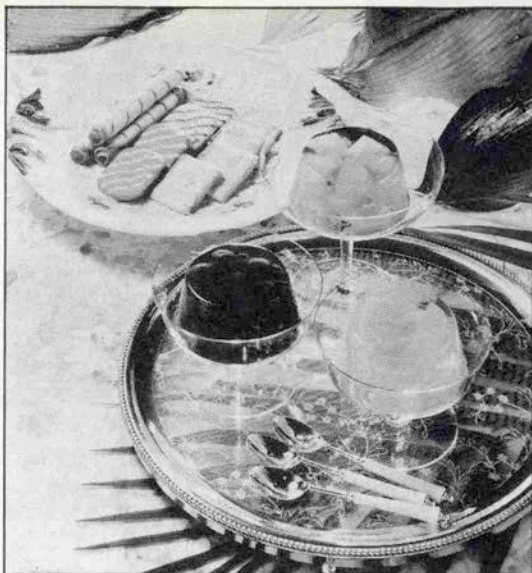
★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15

☎575-1024(病室☎576-9639)

市バス上沢4 停南スグ



木陰の心地よい気分や、高原での心なごむようなひとときを

大切な人にお届けできたらうれしい…。

そんな気持ちをおいしさに変えて伝える

ユーハイムのスイーツのいろいろ。

自然の恵みを吟味した、夏にとっておきのテイストから

ちよっと素敵な夏のひとときが広がります。



ユーハイム

気持ちがこだまする  
SPECIAL  
SUMMER





□エッセイ 14

# 悲しみの 深い淵

田中千佳〈作家〉

カット／西村 功

た。実にいいお手紙ばかりで、こんなにも皆さんに好かれていたのかと改めて驚ろかされた。その中でも、あるたどたどしい文面の手紙が一番、私の心を打った。

A子は、夫の部下だったが、夫より年上だった。戦前の入社だから、社内に怖い人はなかった。肩で風を切り、気に入らない女子社員をいじめ、部長なんか問題にもしてなかった。

何しろ古いから、『専務が新入社員の時、面倒みて上げたのよ』とか、『社長には貸しがあるのよ』とか、役員と太いパイプがあることをひけらかす。

男の人には誰でも一つや二つ、弱味があるし、A子が煩さいので、偉い人達はたまに食事をおごったりする。A子がますます付け上る、ということを繰り返していた。

当然、どの部門でも嫌がられて、引き受け手がなく、人事部長に頼まれて、夫のところに回っ

あんなに丈夫だった夫が、四月にあっけなく逝ってしまった。呆然としている内に、月日は過ぎていくが、悲しみと寂しさは薄らぐ気配を見せない。日毎に、深い淵に沈む思いである。

夫は優しくて面倒見のいい人だったから、誰にでも親切だった。私は彼を百パーセント独占したくて、

『私のパパなんだから、私にだけ親切にして。

他の人に優しくしたら嫌』

といったことがあった。彼は、

『そうはいかん。僕は博愛主義者だから、これからもズーッと、誰にでも親切にする』

とわざと意地悪な返事をして、私を悔しがらせた。

しかし、私は彼の『誰にでも親切』が好きだった。誇らしく思っていたし、私自身も影響を受けている。

この度のことで、沢山の哀悼のお手紙を頂い

てきたのだ。周囲は腫れ物にさわるような扱いをし、本人もすべて承知で威張っていた。

このA子をどういう風に扱えばいいのか、夫も考えたらしい。ある日、彼女を呼び、

『係長昇格試験受けてみないか?』

と聞いた。質問の意味が理解できなくて、しばらくぼんやりしていたのだが、A子はやがて小さな声で、

『私でも受かるでしょうか?』  
と言った。

『受かると思うから勧めるんだよ。君にやる気があるのなら、僕は全面的に協力して上げるけど』  
『お願いします』

ということになり、周囲に内緒で受験勉強となった。

大卒の若い社員には易しい試験でも、戦争中の女学校を出ただけの五十代の女性にとっては難関だった。

夫は今迄の筆記試験問題を参考に、何度も文章を書かせて、添削をした。面接の練習もした。お辞儀や返事の仕方から、服装に至るまで細かくチェックした。何しろ、今迄の評判が悪いのだから、余程いい印象を与えなければならぬ。

A子は夫のしごきに堪え、よく勉強した。意地っ張りで負けず嫌いの性格がよかったのかも知れない。苦心の甲斐あって合格した。

係長になると、月給が上るのは勿論だが、会社とはおかしいところで、先ず机、椅子が変るのだ。机は大きくなり、椅子は肘付きとなる。そして、座る場所が変る。

肩書きの付いた名刺を持って、営業で社外に出

るようになった。紅一点で会議にも出席しなければならぬ。自然、周囲が尊敬の目で見てくれるようになる。

A子は変った。気を配ってよく働き、積極的に会社に協力するようになった。経験は豊富だから、トラブルの処置など鮮やかなものだった。常に全体を見て物事を考え、公平だった。人物が一回り大きくなったと評判になった。

その頃、夫は私にいった。

『A子はいかうだったよ。皆、表面では機嫌を取って、陰ではひどい悪口だもんな。寂しかったと思うよ。係長になって、本人にも会社にも本当によかった。あの人は根本的にはいい人だったんだ』

夫は暖かい愛情で彼女を甦らせ、自信を持たせた。

彼女からの手紙には、迫力があつた。とつとつに停年退職して、もう六十七、八歳位か。しかし、金釘流の字から真実が噴き出してた。こんなにも頼りにされ、慕われていたのかと、妻としては嬉しい。

『あんな素晴らしい方には二度とお目にかかれません。悲しくて悲しくて、涙が止りません』  
というところで、私は声を上げて泣いた。

— A子さん、私も悲しいわ。 —

涙が滂沱と流れ、留まるところを知らない。今夜も又、私は悲しみの深い淵に沈むのだろう。



△筆者紹介▽ 本名林陽子。朝鮮京城生まれ。戦後引き揚げて京都に住む。旧制同志社女専英文科卒。アメリカ系商社に就職。結婚。その後出産のため退社、以来専業主婦。「マイ・ブルー・ヘブン」で昭和六十年代中央公論女流文学新人賞を受賞。現在、東灘区在住。



# 随想 □ 私と神戸

## 俳句で綴る 神戸の思い出

瞿 麦

く・ばく 本名 朱實 上海市对外文化交流協會常務理事、早稲田大学客員教授



「神戸っ子」30周年おめでとう！

’86年4月から’88年5月まで、客員教授として神戸学院大学で「中国文学・唐詩講読」を教えたことがあるので、その思い出のかずかずを俳句で綴ることにしよう。

はるばると海路越へ来て春うらら  
げにこれぞ 一衣帯水 春の海  
麗かや 船笛ひとつ神戸港  
のっそりと 垣根を越へて白樺

「鑑真号」で神戸に赴任した時の句。

上海港を出て48時間で、神戸港に入港。一衣帯水を実感した。

最初、長田区の上田観正会能楽堂を少し上った所に住んでいたが、神戸港を一望でき、隣の白樺が垣根を越えて咲き誇っていた。

神戸の下町のイキのよさ、ざっくばらんな親しみやすさが好きである。そんな句をいくつか拾って見る。

のどかさや坂道登る親子づれ  
再会す 友のなさけの春の宴  
深川の奇しき出会いやところてん  
青簾 囲炉裡屋敷のうどんすき  
温め酒 心弦さらにかき鳴らし  
しずもれる生田の森や花見酒

「深川」は朝日会館地下のてんぷら屋さん。時尚堂の藤田さんとよく飲みに行つて、いろんな方にお会いした。上海京劇院の神戸公演の時、「深川」でささやかなパーティをやったことがある。団長さんはすっかり気に入って、「中国で『居酒屋兆治』という映画を見たことがあるが、こんな庶民的なお店に来て、その雰囲気がよくわかった」と言われた。

第六句は生田神社の観桜祭に参加した時の即興句。加藤隆久宮司に宴席でご披露いただいたのもなつかしい思い出である。

神戸では二回お正月を迎えたが、’87年1月2日NHK

「新春スタジオ句会」で神戸のお正月風景と年頭句を披露したことがあった。「狩」主宰・鷹羽狩行氏のご推薦で、事前にNHKのプロデュースからご連絡があり、ナマ放送の当日、電話でインタビューすることになった。長田神社の初詣や俳句と漢俳（漢詩式俳句）のかかわりについてお話しした後、お正月の句を一句と所望された。

日本酒を飲みながら、ずっとそのナマ放送を聴いていたので、次の句を披露した。

日本酒にほんのり酔ひて新年好<sup>シメジヤ</sup>

「新年好」は中国の新年の挨拶の言葉で、日本語と中国語をミックスした句。

後日譚になるが、旧知の佐々木すみ江さん（目下NHK連続ドラマ「君の名は」に角倉信枝役で出演）から筑波大学に行く乗用車の中でそのナマ放送を聴いて、跳び上るほどびっくりしたとお便りがあった。

転居す宅前宅後 夾竹桃

これからは明石の住人風薫る

時の日や子午線の花きらめきて

孫文の天下為公碑 夏木立

淡路島まなかにあり五月晴

つわものの雄叫び遠し須磨の夏

二年目は明石に引越したが、晴れた日には明石海峡を隔てて淡路島が眺望できた。大学の教職員や大家さん・溝口ご一家、近所の酒屋さんにも、とても親切にしてください。家内は洗濯が終わってから、隣のおばあちゃんと、ゼスチュアを交えて二、三時間話し合うことがあった。言葉が通じなくても「以心伝心」で結構気持ちが通じたのであろう。帰国の時には、お互いに涙を流して別れを惜しんでいた。

二年の滞在中、月に一回青屋・稲畑汀子邸の「渚<sup>なみさ</sup>の

会」に寄せていただいた。毎月一人のスピーカーが俳句にまつわる話をし、それをめぐって話し合う。その後、汀子先生から席題が出され、句会となる。'87年6月25日「月下美人」の句を抄録しよう。

咲くための吐息香となる女王花 汀子

乾坤に月下美人を支ふ茎 草之

声のなきアリアひびかせ女王花 散子

たまゆらのいのち極まり女王花 長

微動とは月下美人の咲く刹那 商平

月下美人揺れて息づくじまかな 瞿麦

「狩」俳句会神戸支部の句会にもよく参加し、奈良における「狩くらべ」や神戸における近畿俳句大会にも参加させてもらった。帰国に際し神戸支部の皆さんと舞子ビラでお別れ句会。

春寒や万感胸に別離の辞 瞿麦

高浜虚子は「俳句の交わりは君子の交わりである」と言ったことがあるが、俳句の「里帰り現象」と言われる「漢俳」という漢詩式俳句が十数年前から中国で流行し、今や子供にまで浸透している。（神戸新聞）夕刊の「随想」欄に執筆の御依頼があったので、くわしいことはそこに書くことにする。7月分の原稿は12日、26日に掲載される予定。）

帰国前には百人近くの方々が集って、湊川神社で盛大な歓送会をしていた。身に余る光栄である。

人生にはいろいろな出会いがある。悠久なる歴史の流れから見れば、神戸における二年間はほんの一瞬かも知れない。それぞれ違った国々の人々が、庶民レベルの「草の根交流」を通じて、その一瞬の出会いを心に刻み、はぐくみ育てていくのが大事ではなからうか。真の友好は、究極のところ、人と人の、心と心との交流である。

神戸の皆様、ありがとうございました。